

### 3. 特筆すべき活動 ((1)・(2) でA4用紙1枚)

#### (1) 全学の教育研究に関する組織改編等への取組と協力、特色ある教育GP等の採択状況と取組、21世紀COE等の採択状況など。

(1) 平成16年度の「加齢医学研究所の将来を考える部局長連絡会」、通称、坂本委員会に委員を出し、議論を行い、答申作成に協力した。平成17年度には医工学研究科の構想ワーキング・グループに2名の委員を出し、構想立案に協力した。さらに平成18年度の国際高等研究教育院の立ち上げに際しては、下記COE関連の加齢研教員が兼務教員として協力した。

(2) COE等への、加齢研からの参加メンバーは以下の通りである。

【医学系】シグナル伝達病の治療戦略創生拠点…平成15年度採択

高井俊行（遺伝子導入）、佐藤靖史（腫瘍循環）、佐竹正延（免疫遺伝子）、貫和敏博（呼吸器腫瘍）

【生命科学】バイオテクノロジー基盤未来医工学…平成14年度採択

山家智之（病態計測制御）、福田 寛（機能画像医学）

【人文科学】言語・認知総合科学戦略研究教育拠点…平成14年度採択

川島隆太（脳機能開発）

【革新的な学術分野】医薬開発統括学術分野創生と人材育成拠点…平成16年度採択

石岡千加史（癌化学療法）

【分子イメージング研究プログラム（PET 疾患診断研究拠点）】…平成17年度採択

福田 寛（機能画像医学）

#### (2) その他、特筆すべき研究・教育・診療・社会貢献等への取組と成果、世界的位置付け（ISI citation など）など。

(1) Nature 誌に論文発表。メディアにて紹介された。

・平成17年度、附属医用細胞資源センターの松居靖久教授が、減数分裂を制御する新規のヒストン・メチルトランスフェラーゼ、Meisetz を発見した。新聞・テレビで報道された。

(2) 医工学分野で5件の特許を申請（公開）した。

・平成17、18年度にかけて病態計測制御研究分野の山家智之教授が、以下の5件の発明を行った。新聞にて報道されたが、1件は新幹線列車内でニュース・テロップとして流れた。①経皮エネルギー伝送システムの発明、②人工食道の発明、③消化管再生医療のシステム開発、④皮膚癌治療装置の発明、⑤てんかん治療装置の発明。

・またロータリーポンプ補助心臓による山羊の1年生存の達成があった。

(3) 大学病院の診療活動に大きく貢献した。

・平成18年度、診療活動の高さが認められ、癌化学療法（腫瘍内科）、呼吸器腫瘍（遺伝子・呼吸器内科）及び呼吸器再建（呼吸器外科）研究分野に、特任助手3名が配置された。

・平成18年度、癌化学療法研究分野（腫瘍内科）が中心となり、厚生労働省が平成18年度からスタートさせた都道府県がん診療連携拠点病院の認定に向け努力し、新聞等で報道されたとおり認定された。また、これに関連して、病院内に東北大学病院がんセンターが設置された。